

第 51 回 室蘭市都市計画審議会 議事録

1. 開催日時 令和 5 年 7 月 10 日（月）14：00～15：10

2. 開催場所 室蘭市役所 2 階 3 号会議室

3. 出席者

委員：市村 恒士、時田 昭子、中田 孔幸、西岡 忠広、野橋 知哉、日栄 均、
松岡 喜代孝、南川 達彦、三村 紀子、森川 卓也、山中 正尚（敬称略）

臨時委員：菊地 範、木村 克俊、鈴木 広志（敬称略）

市側：（都市建設部長）佐藤 一徳

（都市建設部次長／都市政策推進課長事務取扱）末尾 正

（都市政策推進課主幹）稲場 英憲

（都市政策推進課長補佐）村井 幹男

（都市政策推進課都市政策推進係長）秋田 裕二

（都市政策推進課主査）北村 祐貴

（都市政策推進課主査）堀井 数史

（総務部防災対策課長）武田 学

（総務部防災対策推進課防災対策係長）佐々木 健太郎

4. 議題 (1) 室蘭市都市計画審議会について（資料 1）
(2) 室蘭市立地適正化計画の改定について（資料 2）

5. 傍聴者 報道関係者 2 名

6. 要旨

（会長・副会長の選出）

会長 市村 恒士委員

副会長 森川 卓也委員

（議題）

資料 1、資料 2 にて事務局から説明

<質疑・応答>

室蘭市都市計画審議会について

（質疑、意見等なし）

室蘭市立地適正化計画の改定について

【山中委員】

感想です。3人の臨時委員の方には本当にお力をいただきたいと思っています。この会議に参加してきて、災害や防災の話をさせていただいて、都市計画に入れるべきではないかという話を続けてきました。その間、総務部の防災担当の方と連携しながら、さまざまな取り組みをさせていただいています。令和2年に法改正があって、登別市が防災指針を立地適正化計画に記載したという中で、この3年間、私たちの意見的なものがなぜ反映されなかったのか。説明の中では改定のタイミングで防災指針を記載するという説明はありましたけど、でも、災害がいろんな場面で報道される中で、やはり危機感を持つのであれば、その辺のことをきっちりと取り組んでいく必要があるのかなと思っています。要するに、部署によって格差があるような気がするのです。これについてどういう意識でいたのか、なぜ今回の改定に至ったのか、その辺について、多少私は不満に思っていますけど、考え方をお聞きしたいと思います。

【事務局】

早く防災の位置づけをしたほうがいいというお話は適宜伺っていたという認識でいます。なぜ今回のタイミングだったのかということについて、まずは一点、当初計画から5年間、計画の進捗を見極めていくという必要があったので、今回のタイミングに合わせたいという気持ちがありました。それと、市としましては、防災に関する考えは無策で行こうとしているわけではなく、ちゃんと防災の部局において、こういった考えで避難とか防災を考えるかという計画をそもそも持っていますので、慌ててというわけではないですけど、作成したばかりですぐに追加するという考えにはならなかったというところでしたので、今回のタイミングでということにさせていただきました。

【山中委員】

実は防災課の中でワーキングをやられていまして、例えば災害ゴミの関係とか、それを室蘭市のどこに配置するのかとか、ボランティアセンターの設置場所のこととか、さまざま課題に対してすでに打ち合わせさせてもらっています。でもそれをやるにしても、やはりマスタープランのなかできちっと整理していかなければ、という話の中で、総務部は総務部で、割と先行してやっているんですけど、なぜ部署間のなかでその話をできないのかなと思っています。今回の改定の中でやるということに私は否定するわけではないですけど、ただ、もう少し、部署間の連携をしてですね、やはり令和2年に決まったことであるのであれば、まあ改定のタイミングはあるのかもしれないですけど、やはりそれは庁内調整の中で、きちんとやるのが本当の市民の安全に繋がっていくのかなと私は思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

【市村会長】

部署間のことはいろいろあると思いますけど、できるだけ迅速に計画に反映させていくということはとても重要な事だと思いますので、努めていただくということでもよろしく願います。

【野橋委員】

何もわからないものでちょっと言葉を教えていただきたいです。都市計画マスタープランの資料の中で「都市経営」という言葉があるのですが、私にもわかるようにどういうことなのかということを知りたいです。

【事務局】

よく使う言葉で「社会」「経済」「環境」の3つのバランスをとっていきましょうということで、経済だけ回しても社会が回らなくてはだめだし、環境も疎かにしてはいけませんよねという考えがあります。これをマスタープランなりの考えとして「都市生活」「都市経営」「安全・安心」と置いています。ここでいう都市経営とは都市を経営するようなつもりでまちを見ていきましょうということなのです。

【野橋委員】

なにか成果を生み出していこうということでしょうか。都市経営の視点とはどのような事でしょうか。

【事務局】

立地適正化計画の視点もそうなのですが、限りある資源のなかで、なんでもかんでもものをつくって終わりではなくて、長いスパンで見るときに、どこになにを作るべきかということを考えたり、今あるものをうまく使おうということなのです。例えば、もう作った公園があるのならば、その公園をうまくつかってまちづくりをしていきましょうということから俯瞰した視点で考えることが都市経営ということだと考えています。

【市村会長】

私は公園分野でパークマネジメントとか公園経営という研究をやっているのですが、従来型で言うと、量的に一人あたりたくさん公園を作っていくというのが昔の目標でした。いま人口が減っていくと、どんどん量だけが増えちゃって、誰も使っていないというときに、じゃあ何のために公園ってあるんでしょうねという目標・ビジョン設定をして、そのためにいろいろなやり方を考えましょう、組織作りだったりとかいうことを考えるような、経営的な、目標設定とどういう組織経営しますよ、お金をどうやって回しますよというところまで考えてやりましょうということが、都市経営的な感じでしょうか。これまでビジョン設定がなかったものに対して、明確にビジョン設定しながら、それに向けて、これまで作ってきた資源を活用しようという考えです。例えば、人口減少のために、子育て支

援のために公園作りしましょうとか、例えば高齢化が進んでいるのだったら、そもそも公園は高齢者のためのものではなかったかもしれないけど、より明確に高齢者のために公園ってどうあるべきかということを考え直しましょうという、地縁の新たな価値付けといえますか、そういうことを考えるのが都市経営とか公園経営とかの考え方だと思います。

【森川委員】

私は町内会連合会の関係で来てますけども、お聞きしたいと思ったのは、防災指針を作るといことで、非常に我々地域の者にとっては、地域の安全安心のためにありがたいことです。マスタープランなどの中において、防災は大きな位置づけがされていて、山中委員が言われましたとおり、確かにもっとはやくに細かいところも作ったほうがよろしいかということ、もっともだと思います。今からでも遅くはないですが、こういうものができると、そうしますと、マスタープランとか立地適正化計画の中でうたっていたものが、より緻密なものになって、細かいものになっていくということで意を強くしているところです。気象台の菊地委員ですとか、室工大の木村先生ですとか、いろいろな方に、我々地域におきましては講師になってもらったり、いろんなアドバイスを受けたりという中で、防災対策を進めていますし、これは喫緊の課題でもありますから、今日明日という中で、速やかな計画作りをしてほしいなと思います。最後のページを見ましたら、結構日程的に、素早い対応の中で作られて行くということだと思います。パブコメがありますが、町内会とか関係する団体等に、どういう形でこれを理解してもらおうというのか、協力をもらうという方法を取ろうとしておられるのか、考え方がありましたら教えていただきたいと思います。防災対策課の方でどうでしょうか。大まかな手順でよろしいので、どのように地域に理解を求めるのか、もしくは、逆に地域の声を聞くという方法をとっていくものなのか、それともこういう場所で決めていくものなのか、その辺がわかれば教えてほしいです。

【事務局】

まず一つとしては、秋口の防災会議にタイミングがうまく合えばそこで意見を伺いたい。やはり骨子案ができてからでないかと皆さんにどうですかと聞けるものがないので、9月から11月にかけてのタイミングが意見を聞けるタイミングです。もし防災関係のイベントがこの時期にあれば、そこに伺って、ご意見を伺うとか、そのようなことを考えてまして、その他いろんな形でご意見をいただければとは考えてはいますが、詳細は決まっています。

【森川委員】

なるべく市民にわかるような形でこの指針を作っていただければ、実際に実施に移すときに進めやすいと思うのでよろしく願いいたします。

【市村会長】

計画作りそのものじゃなくて、計画を機に皆さんの防災意識を高めるということはすごい重要なことだと思います。皆さんで考えていきましょうということはこのような機会を使っていければと思います。そのようなことをよく考えていていただきたいと思います。

【山中委員】

避難訓練とかいろいろやっていますけど、それは室蘭市は成功している方だと思います。それを都市計画で考えるということになれば、避難場所と避難場所、それと行政的な場所の動線が非常に難しいのかなと思っています。そういうことも含めて防災に振ったのですが、なかなか難しいとは思いますが、そういう意味合いも森川さんはあるのかなと思います。そういうところは私たち市町連などが先行してやっている部分がありますので、何かあれば協力できるものは一緒に参加していただければ、またそういったメンバーが集まっているとしますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

【南川委員】

今回の改定で立地適正化計画の中に防災指針を入れるということですが、そもそも防災計画は室蘭市さんはすでに持たれていて、それを今回立地適正化計画に防災指針が入ること、実際どのような影響がこれからあるのか、その辺がもしわかれば教えていただきたいです。

【事務局】

防災指針は、立地適正化計画の観点で、人や施設を集めようとしているところの避難等を考えましょうということで、登別市の例のように、地域ごとの細かい分析を全地域で見ていくというのはこれまでなかなかやっていたものとなりますので、この情報というものはこれからの防災計画等を実行するときにも役に立つのかなと思っています。新しい観念の指針になるのかなと思っています。

【南川委員】

あくまで避難の関係とか防災計画とかがあると思うので、そちらの方が優先順位は高いと思います。立地適正化計画となると、まちづくりとか、居住誘導とかの話になってくるときに、この防災指針が入ったときに、例えばこれまで居住誘導していた部分が、もし、洪水のハザードの範囲が広がったときに、立地適正化計画の居住誘導区域が小さくなるとか、そういったことも今後考えられるということですのでよろしいでしょうか。

【事務局】

防災の関係は、最初に立地適正化計画を作ったときも、結構市民の方からご意見をいただいています。居住誘導区域を室蘭駅と東室蘭駅の近くに設定しているのですが、津波が来たら終わりなのだから、八丁平や白鳥台とかそういうところにまとめればいいでしょうというお話も実際いただいた経過があります。ですが、何も無いところにまちをつくるのであれば、当然そういったことも考え得るのですが、やっぱりまちができてきた歴史ですとか、これまでの人が作り上げてきた経過とかがありますので、居住誘導区域はいままちがあるところが基本となるでしょうというお話をさせていただきました。その中で、防災については、基本、人が亡くならないことが前提ということを考えて、その中でできることをやりま

しょうということを考えています。防災の判定をして、著しく居住に適さないとか、そういったようなことがあると、居住誘導区域を小さくするという可能性はゼロではないのですが、基本的には、最初に計画をつくったときにそれなりの分析はして区域を引いてますので、基本的には現状のエリアの中で皆さんが困らないように防災対策をやりましょうという作りをしています。

【市村会長】

資料 8 ページにそのあたりは一応、現計画での防災の考え方が若干書いているところです。居住誘導した中で防災というのは難しいところがありますが、基本的に室蘭の中ではもともとあった市街地というところも含めて、最大のリスクははじくけども、その中でまちというものをある程度キープしていきましょうという考えが書かかれている形になっています。ソフトだったり施設のなものでフォローするということはあると思いますけど、全体としてそこに住んじゃだめですよというのは現実的ではないなという考え方が書かれているところです。リスクの細かい評価をしながら、どうしようもないところが発生したら、議論が発生するかもしれませんが、そこも含めて今回改定する意義なのかなと思います。

【木村臨時委員】

私も臨時委員としてだんだん様子がわかってきて疑問に思ったことが一つあります。資料の 6 ページを見ると、中心は室蘭と東室蘭に置いて、居住誘導区域はコンパクトにするというのが決まったことだと思います。2019 年に立地適正化計画ができたそのときに、これを議論する中で、防災のことはどのように議論されたのかということをお教えいただきたいです。

【事務局】

立地適正化計画の防災の観点ですが、今日お配りしている概要版には詳細は書いてませんが、本編には書いています。区域を決めるときに、絶対に外さなければならないハザード、土砂災害特別警戒区域ですとか、レッドと呼ばれるようなところはきれいに外してまして、それより一段階低いイエローと呼ばれるようなところは、市町村の判断でやっていきましょうということで、一通りのハザードは全部チェックした上で、どこを入れる、どこを入れないというチェックをしまして、先ほど説明のあったとおり、中央町とか中島の方のここはどうしようもないようねというようなところは、避難誘導とかをしっかりと計画に基づいてやるということで、そのような防災の議論についてはしっかりやっています。

【木村臨時委員】

誘導区域には入っていて、ある程度水につかることはわかっていたけども、そこは代え難いからそのようにしているとはわかりました。もう一つ伺いたかったのは、本日の 9 ページ目の資料で、登別市の例が出ていますが、これを今回の場で例示された意図を教えてください。こういうものを出されたということは、今回新たに加えるものが、こういうものを想定されているという理解でよいでしょうか。

【事務局】

国から示されている手引きの中でも、こういう重ね合わせをすることでこういうことがわかってきますということがすごくたくさん示されていて、その一つの例として、身近な登別市の例を示しました。このほかにも、人口密度と重ね合わせたりとか、建物を重ね合わせたりとか、いろんな事が出来ると思いますので、それはこれから分析していきたいと思いません。

【木村臨時委員】

今おっしゃった事例だと、確かに都市計画にマッチするなと思いますが、これだと単にいまあるハザードマップの足りないところを補っただけだと思います。だからこれは防災対策課がやる仕事で、ここはその計画の上での足りないことを議論する場だと思います。例えば登別市の場合は、鉄道が入ってますから、鉄道をまたぐ津波避難をどうするか、というのは本当に大きな問題としてありますが、それは、ハザードマップの精度向上とか、避難の精度の向上の問題であって、都市計画の話題ではないかなと思います。もちろん入ってもいいと思います。それが市民の皆さんのためになることでありますから。ちょっとそこが感じたところです。これは今後たたき台で出てくると思うので、その場で議論できると思います。

【森川委員】

これがどういう計画かわかりませんが、指針の作り方、もうすでに防災対策課の方でハザードマップは各家庭にお配りしていますし、津波の場合は、町会ごとに、エリアを決めて、どこに避難してくださいとか、何分で津波が来ますよとか、そういう細かいことを市の方で出してくれてるのです。非常にそれが、われわれ、それを自負して皆さん方地域に話をして、今回私たちも今月の22日に車を使った避難訓練を蘭西7町地域で例えばこの市役所、ここには大きな地震が来て津波が来たら4m近くの津波がここに来ます。だいたいこの辺が水浸しになるのではないかと思います。そういったときに、我々はどうやって逃げるのかとか細かいことをかなり地域で進めているんですよ。特にこの蘭西7町地域につきましては、幸町とか舟見町とか栄町とかそういう津波の被害を被るところで、対策を講じないといけないということで、かなりいろんな面で進めていまして、たぶんこの計画は大きく捕まえて全体のまちづくりという中でもって都市計画上から掘り下げていくのかなという気がします。この指針というものはどのように私たちの生活に入ってくるのか、大きな関心を持っています。そういう形で細かいものと大きなもの、ハード面とかソフト面の対策をお願いできればありがたいなと思っています。まだどんなものができるかわからないので、ここであまり論議するのもいかなとも思います。ぜひいいものを作って、我々地域住民に示してほしいなと思っています。

その他

【日栄委員】

コロナも少し収まってきて、今年の春くらいから地域の集いとかイベントの会議が増えてきました。私も室蘭ルネッサンスを代表して、室蘭ねりこみの準備に行ったときに、地域の方と港や中央町のイベントの話をしたときに、以外と何もわかってないというか、市政だよりとか新聞には出てるのですが、中央町がこういうふうになってるとか、入江運動公園がこうなるとかがわからないで、あそこはどうなんだ、なんであそこはいらないんだとか、そういうときに、室蘭市のホームページでマスタープランを見てくださいとか言ってるのですが、まああまりわかっていないと。であるならば、先ほど野橋委員が聞いたように言葉というか、もっとわかりやすく、マスタープランの進捗とか、大きな長期的なプランとか、わかるようなメッセージを強く出すとか、そういうふうにしていかないと、やっぱり地域の住民が主催者となっていくと、行政だけではこういうことは出来ていかないと思います。近年、行政の方も、協力してくれて、中央アーケード街の広場を盛り上げてくれたんですけど、その後また空き地になっていると、その後どうなったんだろうと、そういうのを商店街の人もよくわかっていないと。今回のねりこみなんですけど、中央町に来たら、上も下もほとんど空き地なんです。空き地をねりこむ感じなんです。最低限やるならば、中央町の方に、せめてそこは地主さんに言って、見物人が入れるようにしてくれと、ゴミ箱だけでも置いてくると、やっぱり歓迎の意を表さないと、蘭西、蘭東と交互にやっているし、やはり地域でそういうコロナが終わった後の、イベントとか、集いとかやらないと、地域の人も住民としてのそのコミュニティの形成がされていかないのかなと思います。それを踏まえて、やはりこの状況を垣間見たら、半年に一回でもいいですから、地域の人たちに市民満足度とは言いませんが、チェックさせるという、マスタープランとか都市計画とかがこう動いてますよと、皆さんいかがですかとか、何か意見ありませんかとか、我々だけに伝えて、我々だけの会の代表で会に持ち帰って会に話しただけでも熱意は地域の人に伝わらないと思います。年3回くらいしかない会議ですし、もっと商店街とかとタイアップして、地域が変わるんだよというのを、しっかり伝えていかないと、先ほど野橋委員が言ったように経営っていう部分を受け継げば、そこにいかに民間が初期投資して、そこに交流人口、関係人口、居住人口を増やすのにも、手助けにならないような気がして、せっかくすばらしい皆さんの知恵を絞って作ったものを地域住民に知らせていかないと、もったいないと思うので、その辺のことをいろいろ考えてくれれば良いと思うのです。

【事務局】

マスタープランに基づいたまちづくりみたいなものは、市でやるような施設をつくったりだとか、都市計画を変えていったりするほかに、市民の皆さんとやっていきたいと思いますというソフトのところを、例えば、先ほどご紹介のあった中央町の空き地を使ってみようとか、マスタープランに基づいた、まちづくり未来計画というものがあるのですが、市民の皆さんで、マスタープランを見ながら、自分達の計画をつくったり、まちづくりをやってみませんかということをやっています。そういったところでは私たちも市民のみなさんとつながっているのかなと思っています。あと、継続的に周知してほしいというところで、私たちも出前講座みたいなものを用意したりしていますが、やはり、計画をつくったあとは、うちに来てくださいという声もめっきり減ってしまったということもあります。定期的な報告は必要で

あるとは考えています。立地適正化計画では、5年に一度進捗をチェックしようということをおこなっていますので、そういうことが我々ができることかなとは思っています。

【日栄委員】

努力はしているとは思いますが、やはり皆さん、出前講座とかわからないんです。であるならば、満足度調査でも何でもいいのですが、関心をもってもらおうという取っ掛かりが必要であると思います。でないと、あの空き地いまどうなんだ、あそこどうなんだということがわからないし、住民に、まちは少しずつこういう風になっていくんだよとか、経営的な要素もあるんだよとか、ソフトのマンパワーのようなものをもってきて、動画とかも沢山出て、大町ギャラリーでもやっていると思いますけど、なんかその辺がもったいないような気がして、せっかく入江のジムの高地トレーニングなんか、行政で道内初なのに、本来であればおらがまちの自慢で、このまちのシビックプライドのようなものになるのに、それがうまく告知されていないというのはもったいないし、もう少し商店街連合会とか、町内会とかも一生懸命やっていると思いますが、複合的に、かけ算の企画みたく、相乗効果があるようなことをすると、中央町でこんなことやろうあんなことやろう、初期投資しようという勢いも出てくると思うのです。商店街というよりも、商店街の良さはだいぶ消えてきているのですが、地域のコミュニティの形成だけは永遠と続くと思うので、それを検討するためには、ぜひそういうことをやってもらわないとダメなのかなと思っています。

【市村会長】

そういう想いを持っている方はたくさん出てきていると思います。そういうのを組織化だったり、いまみたいな継続的な、うちの学生だったら携わっていっぱいやっていますけど、そういう仕組みづくりというのは、審議会とはちょっとずれるかもしれませんが、そのあたりは考えていかないといけないかなと思っています。あと、地域での満足度調査とかはうちの研究室でもやったりしていますので、ぜひタイアップしていけたらかなと思っています。

【山中委員】

ねりこみの話とか出ましたけど、いろんなイベント関係をやるのですが、そのときに、行政も一緒に参加、例えば道路占用するとか、この敷地で何かするということに、一緒に、行政の得意分野を発揮していただくと非常にさまざまなイベントがやりやすくなります。それが地域共生社会の実現になっていくと思うのですが、そういうことに全面的に協力してくれると、たぶん一体的になる動きができてくるのかなと。ですから何かがあったら壁を作るのではなく、一緒に乗り越えるように参加していただくと、きっとイベント企画が、特に学生さん方はいろんなことをやっているのですが、やはりそこに障害があると、壁があると、なかなか、めんどくさいなになってしまうけど、でもがんばっていますよね。そんな考えかなと私は思います。